

ギニア月報(2021年2月)

主な出来事

【内政】

- 14日、ラマ保健大臣は、ゼコレ県におけるエボラ出血熱の発生を宣言。
- 18日、ケイタ国家公衆衛生安全保障局長官は、1万 1, 500回分のエボラ感染症ワクチンを購入し、21日にその一部が到着する旨発表。
- 25日、コンデ大統領は、新型コロナウイルスの陽性率上昇及びエボラ出血熱の再発を受け、現在有効な緊急事態宣言のすべての制限措置は引き続き実施され、夜間外出禁止令を午後11時から午前4時に延長する旨発表。
- 26日、大統領令により、緊急事態宣言が3ヶ月延長。

【外政】

- 2日、黄巍在ギニア中国大使は、カリル・カバ外務・在外自国民大臣を訪問し、2005年の2, 300万ドルの借款免除と1, 082万ドルの事業調査及び実施のための資金援助を約束。
- 20日、2020年9月から封鎖されていたギニア・シエラレオネ間の国境が開放。

【経済(経済協力含む)】

- 16日、クリバリ炭化水素担当大臣とワズニ・ユナイテッド・マイニング・サプライ(UMS)代表取締役社長は、フォレカラリア県モリバヤ港地区における製油所建設の計画調査に関する合意覚書を締結。
- 20日、世界銀行は、ギニア民間投資促進機構(APIP)及びギニア統合農業発展事業と共に、21歳から35歳の若者が営む約100の農業及びバリューチェーン分野の中小企業に対し、各5, 000–15, 000ドル(計100万ドル)を供与。

1 内政

- ・ 1日、コンデ大統領は、コンデ大統領による大臣任命に反対の若者を利用したとして、コマラ政府事務局長を停職とした。
- ・ 1日、カマラ産業・中小企業大臣は、技術支援目的でギニアに渡航する専門家のビザ申請は、治安・市民保護省ではなく、産業・中小企業省を窓口とするコミュニケを発出した。
- ・ 2日、コンデ大統領は、自国民向けに外交官の基準を設定した。
- ・ 3日、コナクリ市第一審裁判所は、2020年10月から閉鎖されている2つの野党 UFDG 本部の開放要求を、「治安上の理由と審議不可能」により却下した。
- ・ 5日、1月に死亡したバリ一野党 UFDG 幹部の葬儀が執り行われ、ディアロ UFDG 党首はコンデ大統領が現職についてから、政府の暴力により260名の市民が死亡した(うち99名が第3FNDC 政権に対する抗議、51名が選挙時の暴力により死亡)とコンデ大統領を批判した。
- ・ 12日、2020年10月の大統領選挙時に拘束されていた未成年者20名のうち、14名が刑罰を受け、6名が解放されることが決定された。

- ・ 14日、ラマ保健大臣は、ゼレコレ県におけるエボラ出血熱の発生を宣言した。最初の調査時点において、感染者は7名（うち3名死亡）。
- ・ 17日、ヤタラ・エネルギー大臣及びディウバテ予算大臣は、新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年4月から12月の間実施していた、電気代及び水道料金無料化を終了する旨発表した。
- ・ 18日、ケイタ国家公衆衛生安全保障局(ANSS)長官は、1万 1, 500回分のエボラ感染症ワクチンを購入しており、21日に一部が到着する旨発表した。
- ・ 25日、コンデ大統領は、新型コロナウイルスの陽性率上昇及びエボラ出血熱の再発生を受け、現在有効な緊急事態宣言のすべての制限措置は引き続き実施され、夜間外出禁止令を午後11時から午前4時に延長する旨発表した。
- ・ 26日、大統領令により、緊急事態宣言が3ヶ月延長した。

2 外交

- ・ 2日、黄巍在ギニア中国大使は、カバ外務・在外自国民大臣を訪問し、2005年の2, 300万ドルの借款免除と1, 082万ドルの事業調査及び実施のための資金援助を約束した。
- ・ 3日、コール在ギニア欧州連合代表部代表は、コンデ大統領を訪問し、欧州連合とギニアの協力、特に第11回欧州開発基金(2014－2021年)の新たな計画に関して意見交換を行った。
- ・ 8日、カバ外務・在外自国民大臣及びカマラ治安・市民保護大臣が率いる外交団は、シェラレオネでビオ・シェラレオネ大統領と面会し、2020年9月より封鎖している二国間の国境に関して協議した。
- ・ 16日、ビオ・シェラレオネ大統領がギニアを訪問し、共同協力協議会の設置、安全保障・情報協力枠組み合意及び二国間関税の協力・相互支援に関する覚書に合意した。
- ・ 16日、サリバン米国家安全保障問題担当大統領補佐官は、在米・ギニア、コンゴ(民)、シェラレオネ及びリベリア大使と面会し、エボラ出血熱完成拡大防止対策に協力する旨表明した。
- ・ 17日、バイデン大統領は、中央及び西アフリカでのエボラ出血熱再発生に関し、米はリーダーシップをもって、WHO、アフリカ連合及びアフリカの疾病管理予防センターと協力し、感染症終息に向けてできる限りのことをする旨表明した。
- ・ 17日、フォンボスティエ在ギニア仏大使は、カバ外務・自国民大臣と面会し、仏がギニアのエボラ出血熱感染拡大防止において協力する旨表明した。
- ・ 19日、松原在ギニア日本大使は、カバ外務・自国民大臣と面会し、二国間関係の強化、エボラ出血熱の感染拡大防止対策、国立公衆衛生研究所(INSP)建設計画及びTICADへの準備に関し、意見交換を行った。
- ・ 19日、フランスは、エボラ出血熱の感染拡大防止対策として、ゼレコレに設置する高性能医療テント(PMA)の設置研修をコナクリにて実施した。
- ・ 20日、2020年9月から封鎖されていたギニア・シェラレオネ間の国境が開放され、ケマヤ・シェラレオネ外務大臣とコンデ大統領が面会した。
- ・ 22日、カバ外務・自国民大臣は、在ギニア・ギニアビサウ大使及びセネガル大使各々と面会し、

2020年9月以降封鎖されている国境開放等、二国間関係に関し意見交換を行った。

- ・ 24日、リ在ギニア北朝鮮「大使」は、フォファナ首相と面会し、二国間協力関係に関し意見交換を行った。
- ・ 28日、フィゲラス西外務・協力担当閣外大臣は、コンデ大統領と面会し、特に女性の活躍支援、若者の雇用促進及び環境保護の分野で二国間協力関係の多様化に向けた意見交換を行った。また、スペインは、エボラ出血熱感染拡大防止対策として、国際赤十字を通じた10万ユーロ規模の支援を表明した。

3 経済(経済協力含む)

- ・ 16日、クリバリ炭化水素担当大臣とワズニ・ユナイテッド・マイニング・サプライ(UMS)代表取締役社長は、フォレカリア県モリバヤ港地区における製油所建設の計画準備調査に関する合意覚書を締結した。
- ・ 20日、世界銀行は、ギニア民間投資促進機構及びギニア統合農業発展事業と共同で、21歳から35歳の若者が営む約100の農業及びバリューチェーン分野の中小企業に対し、5,000－15,000ドル(計100万ドル)を供与した。
- ・ 24－26日、ギニア投資フォーラムが開催され、コンデ大統領は、アフリカ開発銀行及び国際金融公社の支援を受け、農業、公的資金の健全な使用、鉱山資源分野の監査、銀行やテレコミュニケーション、新型コロナウイルス及びエボラ出血熱対策等の67事業に、300万ドルを充てる旨発表した。